

中田るか先生 : Lancet (2010)376: 1741-1750

### **“アスピリンは、右半結腸癌発症を抑制する”**

**Long-term effect of aspirin on colorectal cancer incidence and mortality: 20-year follow-up of five randomized trials**

【背景】アスピリンが癌発症を抑制することは、胃癌、前立腺癌、乳癌などですでに報告されています。今回は、常用量のアスピリンが大腸癌発症を抑制するののかについて検討されたメタ解析です。

【方法】アスピリンによる、心血管イベント抑制などを検討した、5つの大規模研究、総勢 14,033 名、使用したアスピリンは低用量(75-300mg)、あるいは高用量(500-1200mg)で使用期間は、2.5年~5年、あるいは5年以上の患者さんの大腸癌の発症リスク、死亡リスクを平均 18.3 年間で追跡調査された結果がメタ解析されました。

【結果】アスピリン使用者は、placebo に比べ、高用量では、OR0.72、低用量では OR0.60 と、低用量でも十分に大腸癌による死亡リスクを抑制することがわかりました。さらに、低用量アスピリンを 2.5-5 年間使用するだけで 5 年以上と比べて遜色なく、大腸癌発症(HR 0.69 vs 0.62)、死亡率(HR 0.54 vs 0.48)を抑制していました。興味あることに、アスピリンによる大腸癌抑制効果は、右半結腸癌において有意でしたが、左半結腸では有意差は認めませんでした。

【結論】アスピリン使用者は、少量でも比較的短期間でも、右半結腸癌発症や死亡率を減少させることが明らかとなりました。大腸ファイバーを受けて、「君は、腸が長いからトータルは難しいねー」と、消化器の先生に見放された皆さん。アスピリンで、まさかの事態に備えましょう。。(文責 阿比留)